

發刊の辭

しても之を察知することが出来

さう

事実を申上げ度い、それは

外でもない、我々をして不

運ばれる事

の如きの説者なりとした証

告は陸軍省にまで提出され、

然るにその結果は如何であつ

たか、その宗旨に於て我々

ははラジル國軍の光輝ある三

事である、即ち、我々の資

最も公正なる裁断を獲得した

將軍、陸軍大臣エウリコ・ヅ

カム

本紙は今後益々努力して、在

留同國讀者の胸にラジルの

尊名を胸奥深く永久に記

ることであると玆に宣誓す

トト閣下、陸軍次官ウアレン

事及び名譽を傷けんとする不

のできる新聞發刊が示すこ

ト

ラジル精神とラジル國家

たることは、一につての諸御の

總長ゴニス・モンテイロ閣下

の三將軍である

これら諸御の支援を仰ぎ、在

地で當局の審理に委ねられた

たか、その宗旨に於て我々

ははラジル國軍の光輝ある三

事である、即ち、我々の資

最も公正なる裁断を獲得した

將軍、陸軍大臣エウリコ・ヅ

カム

本紙は今後益々努力して、在

留同國讀者の胸にラジルの

尊名を胸奥深く永久に記

ることであると玆に宣誓す

トト閣下、陸軍次官ウアレン

事及び名譽を傷けんとする不

のできる新聞發刊が示すこ

ト

ラジル精神とラジル國家

たことは、一につての諸御の

總長ゴニス・モンテイロ閣下

の三將軍である

これら諸御の支援を仰ぎ、在

地で當局の審理に委ねられた

たか、その宗旨に於て我々

ははラジル國軍の光輝ある三

事である、即ち、我々の資

最も公正なる裁断を獲得した

將軍、陸軍大臣エウリコ・ヅ

カム

本紙は今後益々努力して、在

留同國讀者の胸にラジルの

尊名を胸奥深く永久に記

ることであると玆に宣誓す

トト閣下、陸軍次官ウアレン

事及び名譽を傷けんとする不

のできる新聞發刊が示すこ

ト

ラジル精神とラジル國家

たことは、一につての諸御の

總長ゴニス・モンテイロ閣下

の三將軍である

これら諸御の支援を仰ぎ、在

地で當局の審理に委ねられた

たか、その宗旨に於て我々

ははラジル國軍の光輝ある三

事である、即ち、我々の資

最も公正なる裁断を獲得した

將軍、陸軍大臣エウ리コ・ヅ

カム

本紙は今後益々努力して、在

留同國讀者の胸にラジルの

尊名を胸奥深く永久に記

ることであると玆に宣誓す

トト閣下、陸軍次官ウアレン

事及び名譽を傷けんとする不

のできる新聞發刊が示すこ

ト

ラジル精神とラジル國家

たことは、一につての諸御の

總長ゴニス・モンテイロ閣下

の三將軍である

これら諸御の支援を仰ぎ、在

地で當局の審理に委ねられた

たか、その宗旨に於て我々

ははラジル國軍の光輝ある三

事である、即ち、我々の資

最も公正なる裁断を獲得した

將軍、陸軍大臣エウ리コ・ヅ

カム

本紙は今後益々努力して、在

留同國讀者の胸にラジルの

尊名を胸奥深く永久に記

ることであると玆に宣誓す

トト閣下、陸軍次官ウアレン

事及び名譽を傷けんとする不

のできる新聞發刊が示すこ

ト

ラジル精神とラジル國家

たことは、一につての諸御の

總長ゴニス・モンテイロ閣下

の三將軍である

これら諸御の支援を仰ぎ、在

地で當局の審理に委ねられた

たか、その宗旨に於て我々

ははラジル國軍の光輝ある三

事である、即ち、我々の資

最も公正なる裁断を獲得した

將軍、陸軍大臣エウ리コ・ヅ

カム

本紙は今後益々努力して、在

留同國讀者の胸にラジルの

尊名を胸奥深く永久に記

ることであると玆に宣誓す

トト閣下、陸軍次官ウアレン

事及び名譽を傷けんとする不

のできる新聞發刊が示すこ

ト

ラジル精神とラジル國家

たことは、一につての諸御の

總長ゴニス・モンテイロ閣下

の三將軍である

これら諸御の支援を仰ぎ、在

地で當局の審理に委ねられた

たか、その宗旨に於て我々

ははラジル國軍の光輝ある三

事である、即ち、我々の資

最も公正なる裁断を獲得した

將軍、陸軍大臣エウ리コ・ヅ

カム

本紙は今後益々努力して、在

留同國讀者の胸にラジルの

尊名を胸奥深く永久に記

ることであると玆に宣誓す

トト閣下、陸軍次官ウアレン

事及び名譽を傷けんとする不

のできる新聞發刊が示すこ

ト

ラジル精神とラジル國家

たことは、一につての諸御の

總長ゴニス・モンテイロ閣下

の三將軍である

これら諸御の支援を仰ぎ、在

地で當局の審理に委ねられた

たか、その宗旨に於て我々

ははラジル國軍の光輝ある三

事である、即ち、我々の資

最も公正なる裁断を獲得した

將軍、陸軍大臣エウ리コ・ヅ

カム

本紙は今後益々努力して、在

留同國讀者の胸にラジルの

尊名を胸奥深く永久に記

ることであると玆に宣誓す

トト閣下、陸軍次官ウアレン

事及び名譽を傷けんとする不

のできる新聞發刊が示すこ

ト

ラジル精神とラジル國家

たことは、一につての諸御の

總長ゴニス・モンテイロ閣下

の三將軍である

これら諸御の支援を仰ぎ、在

地で當局の審理に委ねられた

たか、その宗旨に於て我々

ははラジル國軍の光輝ある三

事である、即ち、我々の資

最も公正なる裁断を獲得した

將軍、陸軍大臣エウ리コ・ヅ

カム

刊發祝
家之梅亭料

〇三四八・二話電 六一街ルーヤニビ・ド・テンコ市聖

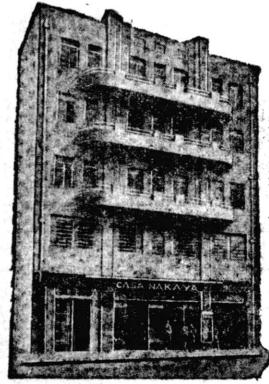
刊發祝

Casa Nakaya
-de-
OUTA & KAWANO

各	繪	書	金	大	日	レ	蓄	罐	小	內	營業科目
其ノ他	旅	工	本	コ	子	外	種	罐	外	外	
日用	行	本	道	コ	物	化	類	罐	物	物	
種	用	用	樂	音	物	化	類	罐	式	物	
類	類	類	具	器	一	粒	類	罐	貨	品	
類	類	類	雜	器	雜	粒	類	罐	式	貨	
類	類	類	類	類	類	類	類	罐	品	類	
類	類	類	類	類	類	類	類	罐	貨	類	

太田・河野商會

聖市コンデ・ド・ビニャール街一七〇
電話二九九一〇七五〇



皆様の百貨店
カーナカヤ

報國丸就航

(サントス九月十九日入港豫定)

恰も聖紀二六〇〇年

ぶらじる丸

あるせんちな丸
に引きつき

刊發祝

圓丸輝二

刊發祝

在伯鹿兒島縣人植民史
編纂人 池田重二

Casa Mituki
Echigo Yamazaki Ltda.

R. Silveira Martins 78 Tel. 3-2735 São Paulo

三喜商會

刊發祝
HOTEL SUEHIRO

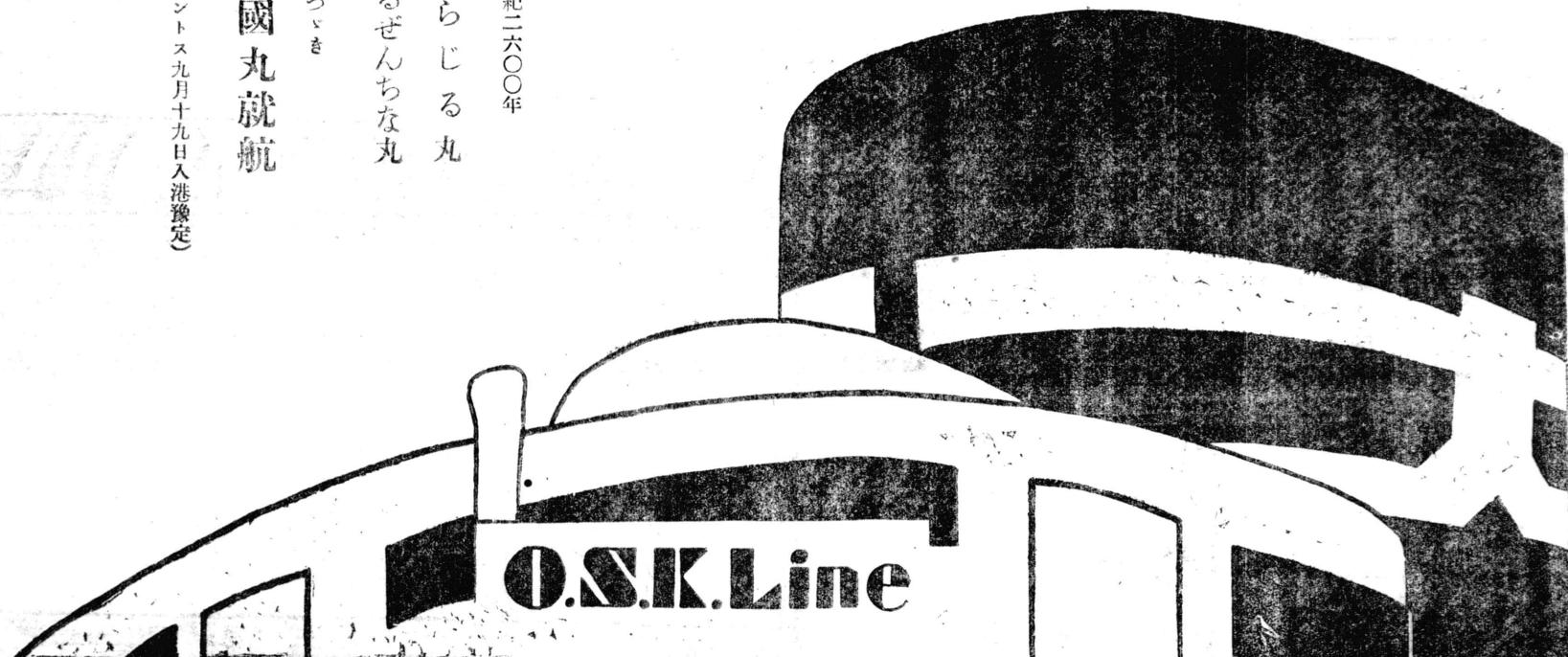
R. Conde do Pinhal, 184 Tel. 2-5638 - S. PAULO

御旅館末廣
中山忠太郎

△歸國手續 迅速に
△鑑識手帳 そして
△商業登錄 正確
△諸願書製作
大阪商船指定切符取次所
御出聖の折は
是弊館へ

祝

O.S.K. Line



祝發刊

全伯邦人體育協會



ESPORTE

凡るゆ
伯人スポーツ團體を傘下に

伯國政府當局は

昨年スポーツ取

締法規を公布し

て全國における

運動競技の統制

を圖る事となり最近益々その

取締りが嚴重になつゝある

この爲め在伯邦人スポーツ團

體育局に正規の登録をなしそ

の監督を受けねばならぬた

つた

全伯邦人スポーツの中心は

その勢力の大半分は奥地に

存在するため先づ各地方に

スポーツ團體の確立を必

要とするに至つたが、奥地

に散在する邦人諸スポーツ

團體が各自に前記の不備を

是正せんため、奥地

上陸上勝連は新スポーツ團

體令が發布されると同時に

今日あるを考へ先づ九月開

始された第八回定期總會に

於てタルブ・アトレチコに

コロニアル・體育協會と改稱し

A.O.と略稱)と改稱し

単に陸上競技のみならず在

伯人諸スポーツの統率を確立

して正規の内地人

スポーツ團體として州體育

團體の認可を受けて居るに

向局の監督下に運行せられて居る

事に考へたる事

市にあると考へたる事

市に考へたる事

聖市 ルア・ダ・コンソラソン二二〇六

家具商
カーナ・屋
島
山本智弘カーナ・モトム
末崎峰作聖市 ルア・ダ・コンソラソン二二〇九
電話 七一七二二七番Casa Atoji
Fabrica de Móveis e Brinquedo
ATOJI & IRMÃO家具製造販賣
カーナ・アトジ
跡治兄弟商會

祝發刊

聖市 ルア・ダ・コンソラソン二二二四

菓子製造商

祝發刊

並農產物仲買
加古淺三

祝發刊

營業
メルカード・デ・ヴェル・ラ内
バラカ
四番

祝發刊

聖市 ルア・ダ・コンソラソン二二二四

服め!! 次のどれかに
相當する人

- ◎胃腸の弱い人
- ◎食欲の無い人
- ◎便秘や下痢症の人
- ◎脚氣らしい人
- ◎心臓の弱い人
- ◎疲労感のひどい人
- ◎熱病中、病後の人
- ◎妊娠中、産後
- ◎人以上に働く人
- ◎長命を欲する人
- エビオス又はハリバは各地有名薬局店にあります
- 不便な地方の方々へは御送金次第一個でも二個でも直ぐ御送り致します



日本人の栄養には矢張り米飯が一番です。然し白米にはホンの微量ではあるが大切な栄養素ヴィタミンBが缺けて居る

その爲めに胃腸患者、脚氣、結核性疾患が多く、幼兒死亡率が高く、心臓を冒され易く、共に永續、活動性に乏しく早く老衰する

エビオスは右の缺陷を補ふ爲めに製された國民的栄養補強剤で、其のヴィタミンB複合體の偉力は胃腸の働きを根本より強めて食欲を進め、食べたものを完全に栄養化し、又心臓の働きを強める、従つて身神爽快となり、不思議に疲労感を減ずるもののです



BRAZCOT L TDA.

Rua Boa Vista 116 - salas 102-3-4-5
Tel. 3-1196 3-1197 3-1198

祝發刊

精棉賣買
一般商事
金融融ブランコット
リミタード

聖市 ルア・ダ・コンソラソン二二二四

ボアビスタ街
三一一九六
三一一九七
三一一九八

どんな人に効く?

ハリバの長所

- 風邪にかかり易い人
- 三四十歳位で精力のない人
- 骨骼の弱々しい子供、青年
- 肺、肋膜の弱い人
- 妊娠中及び産後
- 精力絶倫を望む活動家
- 長命を欲する人

- 一、豆粒程の一個で普通肝油一茶匙に相當する
- 二、未だ曾つて類例のない油塊の糖皮粒
- 三、小さい児童でもツルリと喜んで嚥下する
- 四、實際に良く効く(强度の鳥目が十粒で軽快の例有り)
- 五、愉快に服めるから永續きする
- ハリバ 藥價 一〇〇粒入 三十三銁

工ビオス
ハリバ大阪株式會社丸仁會社
名古屋日本硝子株式會社
東京田邊元三郎商店

新戸大信貿易株式會社

名古屋日本硝子株式會社

東京田邊元三郎商店

伯國代理店

西谷商會

NISHITANI & CIA, LTDA,

Rua de Carmo 400-414 C, Postal, 7748 S, Paulo
Rua S, Pedro 208 C, Postal 1134 Rio de Janeiro

弊店は西谷商店 (CASA NISHITANI) とは何等の關係もない別個の店で御座います。どうぞ今後の爲め西谷商店 (NISHITANI & CIA. LTDA.) とはつきり御記憶願ひます

Escola de Corte e Costura São Paulo**サンパウロ女学院**

R. São Joaquim No. 216 Caixa Postal, 4436 Tel. 7-7845 São Paulo - Brasil

附屬寄宿舍大和女學寮

◆家庭科
◆女學部
◆洋裁專修部
◆葡語部
◆フリータイム
◆花・手料理
◆ダンス

各自身の天分を生かす新しい洋裁の教授法
技術の練磨と共に婦徳の涵養につとむ

洋母國に於ける各自身の能力を認めた教授ス

他ノ日本語ノ私立葡語校
メ校ニシテ検定準備ス

洋裁課程ノ私立葡語校
メ校ニシテ検定準備ス

洋母國に於ける各自身の能力を認めた教授ス

他ノ日本語ノ私立葡語校
メ校ニシテ検定準備ス

祝發刊**小 煙 製 織 久 吉 所**

聖市小畑の蒲團です
いろ／＼考へた舉句、やつぱり之に決めた。
吾々邦人の手に依つて出來た綿を寒い祖國へ
之が國策に副ふ一石二鳥の名案であります。
元氣で朗かな家庭は全部、小畑ふとん黨です。

聖市コンデ・ド・ビリナール街七九番

ちよつと母國へ!!

統制下に一番喜ばれる氣の利いたブラジル土産は

祝發刊

刊發祝
聖市中央メルカードペラカ三〇番
聖市コンセエイロ・フルクード街一五四

刊發祝
内外果實販賣
聖市中央市場(メルカードグランデ)一八番
八アリ(イート)一八番

刊發祝
聖市中央メルカードペラカ三〇番
聖市コンセエイロ・フルクード街一五四

刊發祝
内外果實販賣
聖市中央市場(メルカードグランデ)一八番
八アリ(イート)一八番

刊發祝
寺本洋服店
服なら

刊發祝
建築會社
リーデル

祝發刊

祝發刊
市 村 商 會

Kanji Ichimura

Rua Florentio de Abreu, 159 Sala 3 - 4
Tel. 3-1343 C.P. 1797 End. Tel. Ichimura S. Paulo

Fabrica de Móveis e Serraria

Premiada em Diversas Exposições
Rua Santa Iphigenia, No. 29
Tel. 4-6487 C. Postal, 1005 - S. Paulo



家具材木商
カーザ東京
杉本芳之助

Filial-kw, n. Cattete, 138-Tel. 25-3422
Depósito-R. dos Itanianos, 501-Tel. 5-160
Fabrica-Av. Rudge, 215 - Tel. 5-5344
Serraria-Fazenda Tietê - L. Noroeste
Serraria-Fazenda Ilha Secca - L. Noroeste

刊 發 祝

T. JANE'R & CIA.
Papel - Celulose

テ・ジヤネル商會
伯國最大の紙商

リンニヤス・ダアグア印 洋紙一切 在庫品豊富

都下各新聞社用紙 • その他紙の總元締

Matriz:

RIO DE JANEIRO

Rua Benedictinos, 17 Tel. 23-2064

Filial:

SÃO PAULO

Largo de Tesouro, 16 Tel. 2-6728

Endereço Telegráfico: JANÉR

日米開戦不可避を嘯く タウンツグ少將とはど んな人物か?

獨逸生の猛將

タウンツグ少將の日米戦争

論については、書くことが深

山ある、これは多くの専門家

含む事件である、が、ここ

では深山書いてはられない

先づその人物を書いてみよう

ジョセフ・タウンツグは、

ドレデン生まれのドイツ人で

五歳の時両親と一緒に米国に渡つて轉化した、血は純正

なドイツ人だ、それが馴化に

よつて軍籍に入り、國防の権

機に關する場合、どこまで

させらるのなか? アメリ

カのことではあるが、軍事上

の興味ある問題でなければな

らなかつた

彼が中佐の時、一九一七

六年、アーリカ参戦の先陣を

承はつて大西洋に對獨海戦の

砲火を開いた時であつた、即

ち第一駆逐艦

先に大西洋を横断し、アイル

ランドのキングスタウン港に

と考へて間違ひないといふ

言であつても「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

軍人の政治論

このスリーガンの榮えると

共に彼も出世し一九三一年に

聯合艦隊の參謀長、次で軍

令部次長の要職に歴任した、

アメリカ海軍では艦隊長官だ

は聯合艦隊の參謀長、次で軍

令部次長の要職に歴任した、

これより先、タウンツグの

英帝ヨージ五世陛下は、

アイルランドに行幸遊ばれ

てタウンツグ中佐と同い握手

を交され、海相チャーチル以

ては、その意見は成立

され、これが國策に全般關係のな

い布衣無官の人間にして初め

て通用する、政府から一线で

も貢つて奉職してゐる者の場

合には、一個人の意見は成

立たぬ、傳記的説明は無用と

して少将が終點だ、だから古

い現役少将は日本の大將に該

合するもので、タウンツグの

代表するものと解釋されるの

だ

「個人の意見」といふの

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

「モント主義を護るため、
海軍は守勢を以て足る、
門戸開拓主義を護るために、
海軍は攻勢的なるを要す」

大戦と氣象通報

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

基くものである

言である、「守開き始てた」

らね程の譽言である、これを

責任ある政府要路の提督が議

論で述べたのである、それは

門戸開拓主義を以て足る、

海軍は攻勢的なるを要す」

といふ標語は、誰あん

このタウンツグ提督の提唱に

7. 20]

日五廿月七年五十和昭（日曜木）

く手紙の開封、再封、
外交文書、書類の偽造、
手紙や封筒の偽造、
手紙による罰金犯と云は
るのためには前科何犯と
いふ記入が要る。假に偽
造、封印の變更又は封印
のまま行ふのであつた
ことは今まで言ふ所無く
あり日本の名をもつて
まり日本語の名をもつて
り出すことよきである。

レーハ少佐は暗號の解を以て來てか。その後、米軍は「十日」の間に「全部完備會」を設立し、その後、「米軍」は「日本」に「許した」。そこで「米軍」は「日本」に「拘らす」。一方で「日本」は「米軍」に「拘らす」。このように「日本」は「米軍」を「拘束」する形となる。一方で「米軍」は「日本」を「拘束」する形となる。このように「日本」は「米軍」を「拘束」する形となる。

九一七年には、アメリカの代りにドイツから、イギリスに入り、その代りにドライカーフルフ将軍の智恵をもつて、カーラップのクルスやメキシコ市で、たまに輸出される。英國の軍備は、その代りにドライカーフルフ将軍の智恵をもつて、カーラップのクルスやメキシコ市で、たまに輸出される。

The image shows a single horizontal page of a Japanese newspaper from 1930. It contains five distinct advertisements, each with its own title and text. The titles are '祝發' (Kizuna-hatsu), '原田浩三' (Hiroshi Hayashi), '先原茂' (Mitsuru Sakurai), 'スティス・カフエ店' (Sustis Cafeteria), and 'バウルー牌前' (Bawaru-haijou). The text is in Japanese, with some English words like 'TELEGRAM' and 'CABLEGRAM' appearing in the first two ads. The paper has a light beige background with dark ink for the text.

A horizontal strip of a Japanese newspaper from 1923, featuring various advertisements and headlines. The strip includes:
1. 左側上部: 刊 祝 發 告
2. 左側下部: CASA YASHIMA
3. 中央左側: バウル市
4. 中央: 大笨七三
5. 中央右側: 祝 發 告
6. 右側上部: デランテス街三十五五
7. 右側下部: 原電氣
8. 最右端: 刊

（特に地方用電機、電氣計器類、作計並工事）

刊 谷 賀 仁 新 リアチカ保

度御立 ら
市 吉 シエル街五ノ五一 話 七六一
市 ルー 市
会社 仁吉 賀賛芳
店 仁吉 賀賛芳
水 美 壽 雄
安瀬 盛次
○番 (郵附) 一六
シテス街一〇一九



女子の徵兵検査

全國二百萬人に

體力テスト

國民體力の向上をめざす国民體力法は七月から實施されるが、計算の關係から差當り十七、八、九歳の男子だけが同法の對象となつた、だが國家總力體下女性の體能向上は急務だし、殊に健全な母體こそ國體位向の根幹だといふので大日本女子聯合青年體力テストを行ふことと接の目的とするもので、テストを受けた女性に自己の體力を認識させ、その助長また是に寄せしめることを直にあり、わがままの準備を進めある。このテストはテス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

十五歳までの未婚の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

一級、上級の三級に別する

力の標準などにつ

いては専門家にて研究

を行ふことを定めた。

生徒は毎月定期的に

定期的な試験の體力テストを行ふことと

接の目的とするもので、テス

トの對象は全國加盟各年齢の未嫁の女性およ

うに、健全な母體を確立しておるが、さしあたりこ

そ二百万人である、そしてテ

ストは歩行および疾走、跳躍

を試みるが、その第

祝發刊	Foto Yasunaka U. P. 250 - Basics	祝發刊	森田鐵工所 諸事、道具製作	祝發刊	官崎製菓所 結婚、佛事用御菓子請製致します。	祝發刊	松垣洋服店 ソロカバナ線バストス郵局一九一
祝發刊	安中寫眞館 音崎一義	祝發刊	三宅安太郎 バストス郵局二六七 電話三五〇	祝發刊	森田鐵工所 バストス郵局三四五	祝發刊	福田良三郎 製麵所
祝發刊	石橋農具研究所 石橋長兒	祝發刊	國行卯一 バストス郵局一四四	祝發刊	下津一郎 バストス テレフォネ(二二五)	祝發刊	田川商店 内外雜貨、食料品
祝發刊	岡本兄弟商店 内外雜貨、棉花仲賣商	親切をモットー！	産組會館食堂部 バストス郵局四七	祝發刊	Banco Lotérico Agencia de Lotería SIMOZU バンコ・ロテリコ	祝發刊	古澤商店 味淋醸造元
祝發刊	Casa Bancaria Batac プラタク銀行	祝發刊	前原商店 バストス代理店	祝發刊	HOTEL CENTRAL ENOKI TSUNETAKA 中央旅館 桺常孝	祝發刊	千田 ソルベタリア
祝發刊	ランシヤリア支店 バストス支店 郵局二三六 電話一	祝發刊	バストス自治準備事務所 バストス郵局一四八 電話六	祝發刊	會友交店商ストスバ 池永守夫 早川米次郎 長谷川好太 小茂田光明 佐々木久輔 湯井柄柱 （イ。ハ順）	祝發刊	森部洋服店 バストス郵局一一一
祝發刊	プラ拓銀行 バストス支店 郵局一〇九 電話六二	祝發刊	田中穀商店 販賣部 配達部 バストス移住地市街地 電話二二番 郵局一二三番	祝發刊	聖市販賣所 Telex Tropic. do Tigrap. 474	祝發刊	新製品 バストス織物工場 上田平吉 Caixa Postal, 73
祝發刊	バストス產業組合 ソロ純バストス 郵局四二 電話八	祝發刊		祝發刊		祝發刊	

祝發刊

内田醫院

内田利藤次
醫局員一同

祝發刊

尾形商店

尾形千秋實
生駒農產物仲買
内外雜貨

祝發刊

カバナ線ブ・ブルデンテ市

祝發刊

ブルデンテ市郵函三四〇番

祝發刊

大西兄弟商會
卸内外小雜貨賣ブルデンテ市郵函八十一
電話一八三番

祝發刊

Dr. Cyro Bueno

ブルデンテ獎學會

祝發刊

和洋製菓

祝發刊

ブルデンテ市郵函二二五

西謙二郎

松山鶴堂

祝發刊

ブルデンテ市郵函二二五

ホテル日ノ出

旅館主
村田道江

ホテル東洋

前園次郎

棉花仲買
並ニ農產物仲買

祝發刊

井上吳服店
井上樹義

祝發刊

ブルデンテ市郵函二五

祝發刊

此の度藤田バールを譲り受けて
開店いたしましたから御引立て下
さいます様御願ひ申します

尾畠金作

祝發刊

川崎常吉

祝發刊

藏本作治郎

祝發刊

ソロカバナ銀ブ・ブルデンテ
郵函四九九

吉加江時計店

ア・ブルデンテ市 郵函二五一

祝發刊

内外雜貨
食料品

黒澤卓爾

昭生植民地
岩本三郎

祝發刊

内外雜貨、食料品
牧野有作

祝發刊

小松寫眞館

オズラソン・ベルマネンテ
サロン・ジャボネース

花崎集人

祝發刊

ア・ブルデンテ市 郵函一一二
電話五九

祝發刊

ア・ブルデンテ市 郵函一〇九
小松重

祝發刊

ソロカバナ銀ブ・ブルデンテ
郵函三〇〇

祝發刊

此の度「カーヴ・ダス・ミュデイ」
として小商物店開店仕り候間
皆様の御引立て願ひ上げます

川崎茂

Dr. Jacintho Ferreira da Silva
Caixa Postal, 119 Tel. 6 P. PRUDENTE
歯科専門

ア・ブルデンテ市
歯科醫院
ジャシント
フェレイラ

二十年の経験と最新
式の設備をもつて皆
さんに尤も親切、廉
価をモットーとする
當院を御利居下さい
X光線紫外線等の設
備もあります

Dr. Domingos L. Ceravolo
(リオ医科大学出身)
ドミントン・ドミンゴス・エレ・セラボロ

内科 外科及び産科 電氣療法科
チアテルミー 尚周波療法 紫外線科
各疫病菌の分析検査に應ず

刊

發

祝

角田藥局歯科院

角田才次郎

ア・ブルデンテ市

ア・ブルデンテ市
歯科醫院
フェレイラ

農產物仲買

三宅仁藏

此の度藤田バールを譲り受けて
開店いたしましたから御引立て下
さいます様御願ひ申します

祝發刊

川崎常吉

祝發刊

内外雜貨、食料品
藏本作治郎

刊 發

直輸出入商



株式會社小西商店聖市支店

本社
支店
東京市芝區田村町二丁目株式會社小西商店
神戶市北區合興通六丁目
大連市山縣通十八、大倉ビル聖市セナドール・フェイジオ街一七三一七
リオ出張所
リオ市サン・ペドロ街一三三A
貝ボタン工場
リオ市エストラーダ・ビセンテ・デ・カルバリョ一五三五
電話三〇一三九四四
天津市
法界中法銀街二九二
ボンビード街
埠頭區地鐵街七七

直輸入商

Hachia, Irmãos & Cia.

Rua Brigadeiro Tobias, 688
Caixa Postal, 2670 - São Paulo

祝

目品業營

輸入＝生糸、燃糸、織物、醫療器、齒科機械、印刷機、織機、自動車、染料、塗料、印刷インク、化學製品、農藥品、雜貨
輸出＝棉花、鑛產物、畜產物

近藤特製

伯國二手發賣元

聖市加藤商會

オニゼ・デ・アゴスト街二八八
電話二一八九五三
郵函四二二〇

イー治療機

萬金積むより眞の健康
その健康をイー治療機で野一色蒸氣治療普及機
日英獨墨專賣特許
定價金五百五十ミルレース

祝發刊

SAKANO & CIA.



祝發刊

祝發刊

力ナ力才工業株式會社

聖市ビニエイロス區テオドリロ・サンバイオ街二七五六
郵函二一八六電話八・二五八七

祝發刊

西村精米所

西村早兎海
聖市ビニエイロス區
フェルナン・ディアス街七六七番祝發刊
林岩松

農產倉庫

吉良留吉
松本榮
ソロカバナ線イタベニンガ市
キンチノ・ボカユーバ街六七聖市ビニエイロス區
ミゲール・デ・イサ・樹二A
(ビニエイロス・メルカド傍)祝發刊
新古交換修繕工場レオンもマヤムも素晴らしい好評
素晴らしい賣行きです!!

祝

發

刊

三井特製

レオン號 マヤム號

★サービス値段繼續中、此の好機に貴家も御一臺を

★サービス値段繼續中、此の好機に貴家も御一臺を



男子用 28" 26" 24" 22" 20" 18" 16"
 女子用 26" 24" 22" 20" 18"
 (全型ストック有り)
 尚ほ子供用には獨逸製 CROWN 號も有り

◆各地一流商店に御照會下さい、或は弊店宛直接御申越下さい
◆自転車とタイヤに限り小賣も致します何れも品質はクローム鍍金の堅牢車、然も優美で、
割安と三拍子揃つた弊店の自负し居る二大製品です



EBC Empreza Construtora Boatac
Tel. 3-6633, 4º and. 401-405 sal. TDA.

Tel. 3-6633, 4th and 401-405 sal. TDA.

技術部
土木建築事務所
發電電話架設工事
其様仕事
— 般他設工計 —

 Casa Batllo Tel. 2-1145, 3^o and. ITDA.

商事部 輸入部 Tel. 4-2087 - Rua Paula Souza, 164
 上大東 ボルト サンバウロ
 ニューヨーク アレグレ リオ・デ
 レシフエ モンテビデオ ジヤネイロ
 海阪京 ベロ オリゾンテ
 End. Telg. "BRTAC" - S. Paulo

Casa Bancaria Bratac

Praça da Sé 77. Caixa Postal, 555

 Algodoeira Bratac Ltda.

Tel. 3-2918 3-2919, 3^o and 306-310 sol.

事務所
サンバウロ
東京
大阪
上海
紐上

End. Telé "HAKUMEN" - S. Paulo

行

Casa Bancaria Boatac
Tel. 3-5161, End.Telg."GINKO"- S.Paulo.

支店 マリエア
チバストス
エテ

店支

バウル
オウリンニヨス
プレシデンテ
ブルデンテ
ランシャリア
パラグワス

サンパウロ本店

Soc. Colonizadora do Brasil Ltda.

Praça da Sé, 81 - Caixa Postal, 2975 - Telephone. 2-3121
2-3122 - End. Telg. "IJURENGO" - S. Paulo

BRASIL ASAHI

EX-NIPPAK SHIMBUN

Diário Nipponico de maior circulação no Brasil

Anno I

São Paulo — 5.ª feira, 25 de Julho de 1940

Num. I

Unidade Nacional

Nas condições actuais do mundo, agora que uma guerra trágica sembra a morte e a fome na Europa, o Brasil deve, mais do que nunca, fazer da consolidação da unidade nacional seu supremo objectivo.

Uma unidade assim não se improvisa. Não é ela apenas corolário dum sentimento de afirmação colectiva. Não é uno o povo que quer ser, apenas, mas o que quer e pode se-lo. A base física da unidade nacional é indispensável; a cultura é, em grande parte, uma consequência da civilização. Em nosso caso particular, sabemos que, sob o ponto de vista sentimental e emotivo, o tema da unidade nacional nos é familiar. Sentimo-nos como uma poderosa condição de vida. Aliás, essa é uma constante psicológica comum às populações brasileiras. Exaltados e impetuoso, nada que diga respeito ao destino do Brasil nos é estranho. Sentimos-nos — pela emoção — fundamentalmente vinculados aos destinos da gleba abençoada que Deus nos deu por berço.

Resta-nos, porém, realizar no setor das afirmações materiais — no terreno da civilização — porque já é uma constante da sensibilidade e do sentimento nacional. Que seja enorme o trabalho, nesse particular, não o duvidamos. Somos um povo jovem, ainda. Nossa experiência de vida é relativamente pequena. Por isso, se ainda não nos beneficiamos completamente das conquistas da civilização, podemos sem recato de erro, invocar, como o inciso desse estudo, de vez a vez, a tua ajuda, como porto seguro, para que impeçamos de que o progresso cultural e científico — os fundamentos materiais onde repousa o edifício de nossa cultura. Não só esse instante é um imperativo do nosso desenvolvimento histórico; ele é um postulado da política moderna que os povos moços, como o nosso, devem assimilar rapidamente.

Houve um período de nossa vida em que mais agudo se tornou o endeuçamento "ufanista" às riquezas e possibilidades do país. De Rocha Pita ao Conde de Affonso Celso — por mais nobres que tenham sido as intenções apologeticas desses homens de espírito — há todo um capítulo de psicologia social, a ser escrito sobre os malefícios que o porquienismo causou ao país. Hoje, a situação está mudada, sem dúvida. Não se deve, porém, exagerar a amplitude dessa transformação. Ela atinge apenas uma parte das elites pensantes do país. Estas já compreenderam que certo desdém do brasileiro pela ação é absolutamente nociva aos interesses do Brasil. Relembra, porém, que há ainda a fazer um longo trabalho educativo no seio das massas brasileiras. Fazê-las transformar, em certo ponto, uma concepção de vida fundamentalmente na visão taurina e inconsistente de nossas realidades. Incentivar-lhes a noção realista no exame ató de seus pequenos problemas. Mostrar-lhes que a grandeza do Brasil não se consolida com a certeza de que o país é fértil e adiutor, mas que só um longo leigo trabalho de punctuação e valorização económica de nossas fontes de riquezas é capaz de fazê-lo.

Estamos vivendo um momento glorioso da história do Brasil, em que a unidade nacional começa a ser estruturada, através da dinâmica do sentimento brasileiro de nossas populações, com o trabalho fecundo que derá os rumos de nossa civilização.

BRASIL ASAHI

Ex-Nippak Shimbun

PARABÉNS

Durante longos e intermináveis meses, que ultrapassaram um ano, esteve esta casa, que já conta vinte e cinco anos de existência e já é sem dúvida, mais que um periódico, uma instituição nacional, impedida de continuar a sua modesta, mas laboriosa e honrada carreira. E' do domínio público que o seu fechamento não foi espontâneo e sim devido a um acto compulsório, arrancado à boa fé illudida da administração pela mais revoltante das chantagens.



GENERAL EURICO DUTRA
MINISTRO DA GUERRA

Muito soffremos durante esse tenebroso inferno. Alguns de nós aqui haviam concentrado todas as suas actividades, todo o seu labor, todas as suas esperanças de futuro. Nunca nos nortearam os perigos que não fossem a ameaça respeito ao forte bando terrão que é o berço de todos os malfacientes. Vimos a um toco os números da nossa coleção. Ver-se-á como em todos elas palpita, estreme de hipocrisias e convenções, o culto do Brasil. E duma hora para outra, por meio de documentos imaginários, vimos-nos indignados como seus inimigos e insultadores: Nós que podemos dizer com orgulho temos sido os professores de brasiliade da moderna geração nipponista brasileira!

Uma campanha de falsidades, engendrada por criminosos renitentes, procurou incomunicar-nos com a opinião nacional e é força confessar que conseguiram momentaneamente seus fins. Mas a nossa fé nos homens do Brasil não nos abandonou um instante sequer. Lutamos sempre com firmeza nem treguas, confiados na sua consciência e na sua integridade moral. Logo que ficamos ao par da longa série de mentiras e calumnias que nos eram imputadas, e que o segredo

de justiça conseguira sonegar ao nosso exame, pudemos desmascarar-las e convencer de falsas e embusteiros os nossos delatores.

A publicação do Brasil Asahi é a prova do que afirmamos. Por si só ella basta para demonstrar a lisura do nosso procedimento e inanidade da denúncia que nos salteou. Quanto à ignobil campanha de que fomos vítimas, não a queremos prejugar. Recorremos ás autoridades competentes: elas dirão a ultima palavra num sentido que o nosso apparecimento no dia de hoje já antecipa: a apuração meridiana das responsabilidades com o castigo dos chantagistas e a reabilitação das suas vítimas.

Não podemos terminar estas linhas sem o cumprimento dum dever de consciencia. A calunia, graças à qual fomos apontados como detractores do Brasil, foi levada ao Ministério da Guerra e de lá seguiu os tramites competentes. Queriam os gangsters que nos assaltaram o patrimônio e a honra, apontar-nos á execução do núcleo onde mais vivo e susceptível palpita o culto da pátria e da sua dignidade: o Exercito Nacional. Pois bem. Foi ali mesmo que conseguimos a



GENERAL VALENTIM BENICIO
CHEFE DA SECRETARIA DA GUERRA

devida justiça. E queremos que todos os nossos leitores conservem religiosamente os nomes daqueles a quem devemos a justiça que a nossa reaparição anuncia: três puras glórias do Exército Nacional, os generais Eurico Dutra, Ministro da Guerra, Valentim Benicio, Chefe da Secretaria da Guerra e Góes Monteiro, Chefe do Estado-Maior do Exército.

E' sob esses auspícios que a nossa folha vai continuar a sua missão de radicar cada vez mais no coração de seus leitores a imagem, sobre todas bendita e luminosa, do Brasil.

NOGUCHI, O SABIO JAPONEZ

Viana Junior

trimestre da sua estada, apresentou-se em ensinamentos e tantos trabalhos de vulto, naquela instituição médica bahiana.

Aí assim o vimos.

Noguchi era no physico, como lhe traçaram o perfil: "de pequena estatura, delgado, agil; uma cabeca expressiva, as manhas do resto salientes, o olhar de grande mobilidade, vivo, inquiridor, penetrante".

Era o "tipo dos nippões do Norte, secos, robustos, musculosos".

Empolgado pelo assumpto sempre à baila na patologia indígena, vigente e sempre renovado da étiologia da febre amarela, desafiando, em disputado anseio, a argucia de tanta gente de prô, através do tempo profundamente impressionado pela sua técnica genial neste e nos mais variados departamentos da ciência experimental — não deixamos mais o seu convívio de sabio, durante o

honesto, de carácter basado no crisol das purificações, sem odios, nem rancores, inclinado às contemporâneas das indulgências; pouco loquaz, penetrante, perspicaz, de uma memória atentissima, falando todas as línguas, inclusive a mimica de gestos largos e traços a lápis demográfico na lavanda das mesas, onde ia fixando, em transito, o esquema apresentado das suas pesquisas; prestidigitador agilíssimo, magistrado a deficiencia de seus dedos reduzidos, quando em manejo e apreensão a um só tempo de varios tubos e pipetas, doces ao alíndio disciplinador, certo raro dos pentes; ralos e igualmente finos os bigodes; irrequieto, denunciando nas cintilâncias vivas dos pequeninos olhos patrimoniais da raça turbilhão de idéias que lhe tumultuavam nos refolhos de um cérebro de genio; de sempre para sempre florando nos labios um sorriso genotípico, nippônico; cortez, affavel, de uma delicadeza de medidas inglemas, impositiva e envolvente; atencioso, modesto, trepitante, trabalhador incansável e invejável á vigilas longas, sobrio,

apreciando as constantes oscilações do valor da libra esterlina, em consequencia da guerra, resolviu o governo do Japão, desligar o yen da moeda inglesa, para ligá-lo ao dollar americano. Tomada essa resolução, foi transferida de Londres para Nova York, a Boisa Internacional de Pagamento do Império Japonez. O yen foi fixado, em acordo com a nova paridade em relação ao dollar, na de 100 yen por \$23 2/16.

O noticiario telegr. phico publicado pel "BRASIL ASAHI" é fornecido pela Agencia Domei, japoneza.

(Carioca)

O QUE NOS REVELAM OS RECENSEAMENTOS

Não ha dúvida de que, num paiz jovem e vigoroso como o Brasil, as operações censitárias periódicas exaltam o sentimento de grandeza nacional, porque revelam, através de comparações, o crescimento do povo, o aumento das actividades e iniciativas, o avanço da economia, as novas conquistas sociais, numa palavra, as etapas do progresso colectivo.

Com efeito, quem escolher ao acaso dentre os resultados numéricos dos recenseamentos anterioremente feitos no Brasil, as cifras referentes não importa que aspecto da vida brasileira, seja o numero de explorações agrícolas ou de estabelecimentos industriais, seja o numero de hospitais ou casas de diversões, seja o efectivo escolar ou o efectivo operário, vê logo surgirem claramente os marcos do progresso realizado.

Todo o Brasil se orgulha, muito breve, de poder apresentar ao mundo os resultados dos Censos Nacionais de 1940.

O CENSO AGRÍCOLA

O censo agrícola, primeiro grande ramo do censo económico, está planejado de modo que proporcione uma visão completa dos recursos do solo e das explorações das capitais federal e estaduais. O mero enunciado de tais cifras retrata, com uma clareza impossível de ser fixada por meio de palavras, o verdadeiro crescimento dos nossos centros urbanos.

Quando se realizou, em 1872, o primeiro recenseamento geral do Brasil, a cidade do Rio de Janeiro contava a apenas 274.972 habitantes. Dezito anos depois, em 1890, esse número já estava quasi duplicado. Em 1900, a população do Rio atingiu a 811.448 habitantes e vinte anos mais tarde, a 1.157.873.

Porto Alegre tinha, em 1920, 132.265 habitantes, cerca de quatro vezes a população ali registrada em 1872.

A cidade de São Paulo, naquelle anno, era menos populosa do que São Luiz do Maranhão, Fortaleza, Cuiabá e Niterói, isto é, contava apenas 31.285 habitantes. Em 1890, a capital paulista já havia superado todas essas e ainda Belém do Pará, apresentando-se com 64.934 habitantes, ou quasi metade da população então existente no Recife. Já em 1900, São Paulo era a capital estadual mais populosa do Brasil — 239.820 habitantes, segundo se São Salvador, onde foi recenseado um efectivo demográfico de 265.818. Apenas 20 anos mais tarde, São Paulo já havia duplicado a sua população, pois em 1920 era esta representada por 538.038 unidades.

Todas essas informações, deve o agricultor fornecer com exactidão, sem o minimo risco de que venham a ser utilizadas para quaisquer fins que lhe possam ser prejudiciais e sempre lembrando de que, quando se encontra com tanto desvelo desassumptions que mais interessam à agricultura, como o crédito rural e medidas de protecção à actividade agrícola, em censos agrícolas minuciosos e perfeitos merece.

O Japão na Historia Contemporânea

GABRIEL MENNA BARRETO

O Japão vai festejar no corrente ano o 2600.^o aniversário da sua fundação, e, entre as comemorações nacionais, uma se destaca por seu alto sentido político e cultural: é o concurso literário promovido em todo o mundo, afim de que se divulguem, sempre e cada vez mais, as características do povo nipônico, as suas relações espirituais com a Europa, África e a América, e a posição que ocupam no plano da civilização contemporânea a inteligência e a cultura do grande paiz do oriente.

Quando o Mikado, o Shogun e os Daimios viram, em 1864, arrasadas em poucos momentos as suas fracas baterias, e arderem chamas o porto e a cidade de Shimoneski, sob o fogo das esquadras combinadas dos Estados Unidos, da Inglaterra, da França e da Holanda, em consequência das divergências suscitadas com a execução do Tratado pelo qual os portos do Japão haviam sido abertos ao comércio e às relações com as nações ocidentais, e dos atentados de que eram constantemente vítimas os estrangeiros, compreenderam então que era impossível resistir e lutar contra os que dispunham de tão formidáveis elementos de guerra e que fogo era transigir até que lhes fosse facultado o ensejo d'apoderar-se dos segredos e das ciências dos europeus...

Então pensavam sabiamente os dirigentes nipônicos — com armas iguais, e império poderia resistir à toda e qualquer agressão vinha de outras nações mais poderosas, e até mesmo importava o respeito devido à sua soberania e independência.

Novamente abertos os portos às relações e ao comércio com os estrangeiros, as indústrias, as letras e as ciências alienigenas invadiram o Japão, que por seu turno também enviou à Europa e aos Estados Unidos numerosas delegações e outras missões que visitaram as capitais mais importantes do mundo.

Novamente abertos os portos ás relações e ao comércio com os estrangeiros, as indústrias, as letras e as ciências alienigenas invadiram o Japão, que

tude nipônica as luzes do saber e da cultura que dominavam o século XIX.

Ainda por esse tempo operava-se radical transformação nos costumes políticos do paiz. Veiu a guerra civil que trouxe em resultado o desaparecimento do Baeufu ou shogunate dos Kugú ou príncipes feudários que se apoiam nas Daimios e Samuráis, isto é, na classe militar.

O poder temporal, usurpado ao legítimo soberano durante vários séculos, foi restituído à sagrada pessoa do Mikado, o qual desde então começou a mostrar-se ao seu povo e transferiu a sua residência para Yedo, nome este mudado depois para Tókio ou capital oriental. O período cronológico foi também mudado, dando-se á nova éra o nome de Meiji ou do governo ilustrado.

Adoptando a civilização ocidental, o governo japonês em boa hora comprehendeu que devia attender com os mais solícitos cuidados á educação popular e enviar para as universidades europeias jovens príncipes e outros jovens de nobre estirpe com o fim de aprender, estudar e observar, e, do velho mundo, essa mocidade saída e intelligente regressou aos lares patrios completamente transformada pela cultura ocidental que serviu de estímulo e parâmetro para as novas gerações nipônicas.

Escolas primárias, secundárias e superiores foram criadas em profusão no império do Mikado, que adoptou de preferencia os métodos educacionais alemães e norte-americanos.

O exercito japonês foi reorganizado e instruído por officiaies franceses, e, conta, há varios decennios, com um forte núcleo de officiaies de escol, dotados de cultura profissional e geral, adquirida ora em seu próprio paiz, ora na França ou na Alemanha.

Desde a memorável guerra com a Russia czarista, até as recentes offensivas cyclopicas sobre a China, a força armada nipônica passou a desempenhar papel preponderante na política interna e externa do Japão.

or em varias jornadas no Japão, sob o consolo dos apoiados rennes, o do imenso interesse, di- se envolvendo e difusão da cul-

O Sr. Shozô Murata, intensificador do intercâmbio nipo-brasileiro, convidado para ministro das Comunicações

Rio, 22 (Estado) — Notícias particulares recebidas nesta capital informam que foi convocado pelo príncipe Konoye para fazer parte do novo governo japonês nos altos postos de ministro das comunicações e ministro dos serviços ferroviários, o senador Shozô Murata, presidente da Companhia de Navegação Osaka.

O eminentíssimo homem publico tem sido um líder do trabalho de aproximação nipo-brasileira, devendo-se ao senador Murata o movimento intensificador do intercâmbio comercial entre o Brasil e Japão, tendo sido elle quem introduziu a grande organização a aumentar a sua frota constituída de grandes transatlânticos de que o "Brasil Maru", é um dos mais bellos.

O nome de "Brasil" foi dado a essa magnifica unidade da marinha mercante nipônica, precisamente, por determinação do senador Murata. Convidado pelo príncipe Konoye, que conhece bem os altos méritos de s. exa., o senador Murata, a despeito das enormes responsabilidades que lhe cabem na direção da Osaka Shōsen Kaisha, não se pode afinal esquivar de prestar á sua patria os serviços da sua experiência e da sua cultura.

Dá-se assim o facto rarissimo

na vida política e administrativa do Japão de um cidadão ocupar simultaneamente duas pastas, pois trata-se precisamente de dois Ministérios: o de Comunicações propriamente dito e os Serviços Ferroviários.

O Brasil deve ficar intensamente satisfeito com a escolha desse pioneiro da política de bom amizade que o Japão vem realizando em relação ao nosso paiz, a qual já repercutiu de forma extremamente satisfatória nos altos círculos governamentais, notadamente no Ministério das Relações Exteriores,

onde se tem alta conta a benemerita ação do presidente da Companhia de Navegação Osaka.

Desde então a interessar gregos e troyanos num grande concurso literário destinado a focalizar, sob múltiplos aspectos, a vida do paiz.

O momento histórico é oportunamente decisivo.

A cultura europeia, nestes instantes dramáticos, sofre uma provação crudelíssima, e o mundo consternado assiste ao grande colapso de uma civilização...

Prefeiro ás descrições históricas os ensaios de interpretação e a livre discussão em torno das possibilidades de desenvolvimento e difusão da cul-

ture nipônica no mundo novo, os sabios convidados do império do Sol Nascente lançam os primeiros fundamentos de sua influência nos dias confusos que se seguirão á futura paz europeia... E tem ainda sobrejá razões os estadistas nipônicos quando reagem para segundo plano ás descrições históricas hauridas através da existência milenar do grande império.

O que realmente interessa á civilização contemporânea é a nova éra nipônica — Meiji — que teve inicio depois da agressão naval de varias potências em 1864.

Desde então, parece que o grande império do oriente fixou as linhas mestras de sua conduta em relação á política internacional...

(O Estado de São Paulo)

電 製 精
器 材 棉
文 工 精
設 場 米
祝 發 刊

UI
吳 食 雜
料 貨 品
部 部

Organizado o novo governo japonês

Declarações dos novos titulares

Tokio, 23 (Domei) — O príncipe Konoye, encarregado da organização do novo Gabinete, completou hoje a sua composição. O novo governo ficou assim constituído:

Príncipe Ministro: Príncipe Fumimaro Konoye.

Relações Exteriores e Negócios Ultramarinos: Yôsuke Matsuoka;

Interior e Bem Estar Social: Eiji Yassui;

Finanças: Issao Kawada;

Guerra: General de Brigada Eiki Tôjô;

Marinha: Vice-Almirante, Zengo Yoshida (conservado);

Justiça: Kayami Akira;

Educação: Kunikiko Hashida;

Agricultura: Tada-ats. Ishiguro;

Comércio e Indústria: Ichizô Kobayashi;

Comunicação e Estradas de Ferro: Shozô Murata;

Sem Pasta: Uaki Hoshino.

Recebido favoravelmente o novo Gabinete

Tokio, 23 (Domei) — O novo gabinete hontem organizado pelo príncipe Konoye está sendo favoravelmente recebido, tanto nos círculos econômicos e financeiros como nos círculos políticos.

O novo titular da pasta da

Fazenda, sr. Kawada, na sua

primeira entrevista concedida á

imprensa satisfez a expectativa

geral, favorável, declarando

que se absterá de fazer mudanças radicais na política financeira.

O general Tôjô, ministro da Guerra, lembrou ao povo

o gigantesco trabalho realizado

pela nação no actual conflito

sino-nipônico e a necessidade

de ser desenvolvida uma ação

milenar

da cultura nipônica no mundo novo,

os sabios convidados do império

do Sol Nascente lançam os

primeiros fundamentos de sua

influência nos dias confusos que

se seguirão á futura paz europeia...

E tem ainda sobrejá razões os

estadistas nipônicos quando reagem para segundo

plano ás descrições históricas

hauridas através da existência

milenar do grande império.

O que realmente interessa á

civilização contemporânea é a

nova éra nipônica — Meiji —

que teve inicio depois da agressão

naval de varias potências em

1864.

Desde então, parece que o

grande império do oriente fixou

as linhas mestras de sua con-

ducta em relação á política in-

ternacional...

(O Estado de São Paulo)

O comércio Exterior do Japão no Primeiro Trimestre de 1940

Augmento nas cifras e diminuição nos volumes

De acordo com as cifras estatísticas publicadas pelo Ministério das Finanças do Japão, as exportações japonesas durante o primeiro trimestre do corrente ano alcançaram 918.914.408 Yens e as importações 991.448.800, ou um total global de 1.910.363.208 Yens no seu comércio exterior, balançando desfavoravelmente em 71.534.208 Yens.

Comparando ao período correspondente de 1939, vê-se que houve um aumento de 228.115.005, ou 33,9% nas exportações e de 233.692.200, ou 30,7% nas importações, resultando em um aumento total de 461.807.205 Yens ou 31,8%.

As cifras que seguem revelam que enquanto se registraram acréscimos nos valores das mercadorias embarcadas, os respectivos volumes decresceram, facto que indica uma sensível alta no preço por unidade do produto exportado.

As exportações japonesas de seda crua, durante os treze primeiros meses de 1940, registraram um volume de 3.037,4 toneladas, avaliadas em 96.669.000 Yens.

Durante igual período de 1939 foram embarcadas 4.639,4 toneladas, avaliadas em 71.461.000 Yens, Houve, pois, de um período ao outro, uma diminuição de 1.602 toneladas em volume, ou 34,6%, mas um aumento de 25.208.000, ou 35,2% no valor. Attribui-se esta alta ao fenômeno aumento na cotação de seda crua, hoje calculada em 1.910 Yens por fardo de 50 kilos, contra 924,00 Yens cotado há um anno passado.

Tecidos de algodão também verificaram decréscimo no volume exportado, caindo de 539.932 jardas quadradas em igual período de 1940, ao passo que o valor aumentou de 85.809.000 Yens para 104.296.000 Yens.

Dos 53 produtos de exportação, classificados pelo Ministério das Finanças, 39 registraram acréscimos nos seus valores, do primeiro trimestre de

1939 para o período correspondente de 1940, ao passo que 14 decresceram.

O algodão continua, entre os principais produtos classificados de importação, ser a matéria prima mais em demanda no mercado japonês.

Comparando as compras realizadas durante os primeiros trimestres de 1939 e 1940, nota-se que houve um pequeno aumento de 15.315.000 Yens, apesar do volume ter baixado de 18.355 toneladas.

Cifras importadoras de produtos tales como ferro, aço, petróleo, máquinas e acessórios e de outros pertencentes à indústria belicosa não são divulgadas, de modo que a classificação de outros mostra cifras elevadas.

BRASIL ASAHI

Ex-Nippak Shinbun

DIRETOR

José Yamashiro

Redacção — Administração e Oficinas

Rua Maestro Cardim, 1100

Telephones: 7-3325 e 7-3326

Caixa Postal, 376

SUCCURSAL:

Rua Irmã Simpliciana, 48

Telephone 2-3926

SÃO PAULO — Brasil

Assignaturas

PARA O BRASIL

Por anno..... 60\$000

Por semestre..... 30\$000

PARA O EXTERIOR

Por anno..... 120\$000

Annuncios

Temos á disposição dos interessados

uma tabela completa de preços para

annuncios nesta folha

0 chefe da delegação brasileira à Conferência de Havana, agradece á Companhia de Navegação Osaka

Havana, 21 — O ministro Nabuco Gouveia, chefe dos representantes brasileiros à conferência de Havana, manifestou-se muito grato á Companhia de Navegação Japoneza Osaka Shōsen Kaisha, que alterou a tabela de viagem do navio "Brasil Maru", permitindo assim que a delegação do Brasil chegasse em tempo á Havana.